

令和7年

所信表明

(要旨)

2月27日に開会した清瀬市議会第1回定例会で、澁谷桂司市長が、令和7年の基本的な市政の運営方針や主要事業についての考え方を表明しましたので、その要旨をお知らせします。なお、所信表明の全文は市ホームページに掲載しています。



全文はこちら



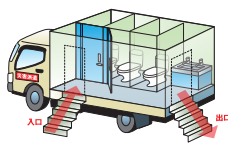
安全で安心して暮らせるまちに

災害医療対策事業として、災害時の医療体制を充実させるため、医師会や薬剤師会等と連携し、緊急医療救護所で使用する医薬品の確保を進めます。

また、妊娠婦や高齢者、障害者などの皆様にも、できるだけ不自由なく避難生活を送っていただくための備蓄品を整備します。

安全安心な備蓄食料の確保、市内産農産物の消費拡大とPRを兼ねて、防災備蓄食料として、清瀬産の農産物を使用した備蓄用レトルトカレーを開発、製造します。このレトルトカレーは、特定原材料不使用、動物性油脂不使用で多様な避難者に対応した商品で、令和7年秋・冬収穫の野菜を中心に使用し令和8年3月完成予定です。

さらに、自走式のトイレカーを1台確保します。このトイレカーは災害時だけでなく、平時はイベント等にも活用することを予定しています。



台風やゲリラ豪雨時などの道路冠水対策として、平成25年度から実施してきた柳瀬川右岸第8-1排水区、柳瀬川から新小金井街道までの雨水幹線整備が終了したことから、令和7年度は清瀬花の里公園周辺に降った雨水を、雨水幹線に取り込むための枝線整備や

既設道路排水管のルートを変更する工事を進めます。

特殊詐欺の手口や被害防止対策についての講習会を開催し、受講した方を「清瀬市特殊詐欺被害防止サポーター」に認定する制度を開始します。講習受講者には、認定書を交付するとともに、被害防止啓発のためのグッズを配布し、サポーターに認定された方々が、ご近所での相互啓発を行っていただくことで、被害防止を図ります。

にぎわいを創出し選ばれるまちに

南部児童館等複合施設及び中央公園の整備を進めます。昨年9月に整備工事が始まり、去る1月22日、23日には鉄道車両「夢空間」の搬入作業も完了しました。工事は順調に進んでおり、令和8年2月に児童館等複合施設と公園の一部をオープンし、同年10月には公園全体のオープンを予定しています。



清瀬駅周辺の未来構想ビジョンを策定します。今年度は基礎調査をもとに課題の整理、検討を行ってきました。令和7年度は、その結果を踏まえ、清瀬駅周辺を、商業やサービスなどのさまざまな機能が集積するにぎわいのある市街地の中心として、長期的に発展させるための未来構想ビジョンを策定します。

秋津駅8号踏切南側の道路は、幅員が狭く、歩道も整備されていないことから、踏切の横断待ちの歩行者や自転車、自動車が混在するなど、安全性の確保が困難な状況です。こうした状況の解決に向け、令和7年度は、測量や平面交差点の予備設計などを道路拡幅に向け着手します。一日も早く、安全・安心な道路環境の実現が図れるよう進めていきます。

「SDGs未来都市」の責務として、持続可能で環境に調和した農業振興を進めるため、新たに、堆肥を活用する農業者に対して必要な費用の一部を補助する有機質肥料利用促進事業を開始します。

子育てが楽しいと思えるまちに

産後に家族などから援助が受け

られない産婦や乳児に対し、心身のケアや育児支援などを行う産後ケア事業について、令和7年度から宿泊型と通所型を導入するとともに、訪問型の利用期間を「産後半年まで」から「産後1年まで」に拡充します。

令和6年度に引き続き、0才児から5才児がいるご家庭に、保育園、幼稚園などの子育て関連事業所や、市内のお店で利用できる電子商品券「きよせ・チルドレンファーストチケット」を、子ども一人につき1万円分発行します。

令和7年度から、新たに、困難な状況にある家庭の子どもたちへの配食・宅食に対し、1食当たり500円を補助する制度を開始します。また、これまで補助対象外であった備品の購入費用についても、3年ごとに最大5万円の補助を開始します。

市立小・中学校に通う児童・生徒の学校給食の無償化を引き続き実施します。

子どもが生きる力・考える力を身に付けられるまちに

中学生が自ら主体的に現地を訪問し、学ぶことを支援する児童生徒国内派遣事業を創設します。市内の中学生が自ら学びたい分野、関係する訪問先を企画、立案し、現地を訪問することで、広くその実情を直接見て、聞いて、学び、主体的にたくましく生きる生徒を育成することを目的として実施します。

清瀬小学校は、今年で開校から128年を迎えることから、新しい時代の学びに適した新しい学校を整備してまいります。令和7年度から新校建設に向け設計業務を開始します。

持続可能な新しい図書館サービスとして、来館しなくても「おうち図書館」® 図書館を利用できる本の宅配サービスを「おうち図書館」と銘打ち、4月1日から開始します。



また、地域図書館を閉鎖する竹丘地域市民センターと下宿地域市民センターに市民サロンを整備します。なお、閉鎖する各地域図書館施設の跡地については、今年度行った公共施設を活用した子どもの居場所検討委員会



の答申を踏まえ、新たな子どもの居場所として整備することを視野に検討を進めます。

駅前図書館は、開館から約30年が経過することから、現在、照明をLED化するとともに、新たにこども図書館のスペースを新設するリニューアル工事を実施しています。リニューアルオープンは4月1日を予定しています。

誰もが健康でいきいきと暮らせるまちに

胃がん検診の受診機会の拡充を図るため、これまで実施してきた胃部エックス線検査に加え、50歳以上の方を対象に、胃内視鏡検査を開始します。

きよせスマホチャレンジ事業として、デジタルデバイドの解消や健康推進を目的に事業を行います。スマートフォンをお持ちでない方には機器を無料で貸し出し、スマートフォン講座でわかりやすく使い方などをお教えします。



また、スマートフォンを活用したイベントとして、スマホサロンによる居場所づくりや、アプリを活用したオンラインでの居場所づくりなど、スマホやデジタルサービスに関するイベントを実施します。

地域の魅力を発信し愛されるまちに

清瀬市の大きな特徴である清瀬市と結核療養に関わる歴史を広く国内外にプロモーションするとともに後世に引き継いでいくため、(仮称)結核療養サミットを開催します。開催は、11月の後半を予定しています。

市制施行55周年記念事業の一環として、映画「ぼくらのレシビ図鑑シリーズ」第4弾を、清瀬市を舞台に制作します。プロジェクトは既に始動しており、セミナーや市民参加型ワークショップを計3回実施しました。今後も学生向けワークショップや市民キャストオーディション、映画制作協力隊の募集などを行い、市制施行55周年に向けた機運醸成を図っていきます。

